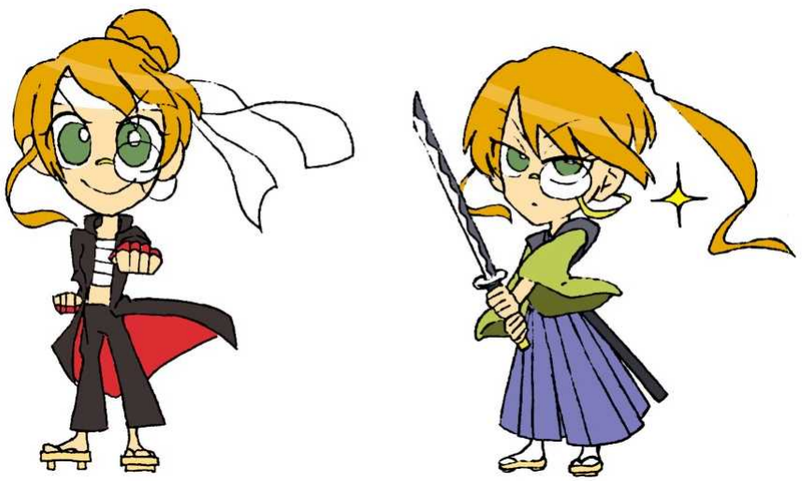
第３号
2020年11月発行
西宮市立西宮東高等学校
図書委員会　広報部

☆特集☆　冬に読みたい本

「青くて痛くて脆い」 住野よる

大学一年生の僕は、じぶんの行動には相手を不快にさせてしまう可能性がある、と考えた。人に不用意に近づきすぎないこと、を自らの人生のテーマとした。僕は、そんな僕とは反対に、周囲から浮いているが、まっすぐな秋好寿乃と出会った。最初は彼女を馬鹿にするが、その理想と情熱に触れて、二人で秘密結社をつくった。
…それから 3 年、秋好はもういない。傷つくことの痛みと青春の残酷さを描ききった作品。今年実写映画化した話題の住野よるの代表作です。ぜひ読んでください。



「クリスマスの思い出」トルーマン・カポーティ

１８８０年代のアメリカ。６０歳を超えたおばあちゃんのスックとその遠いいとこで７歳のバディは毎年１１月にフルーツケーキを３０個作ることになっていた。そのために２人はコツコツお金を貯める。そして作ったケーキを２人が気に入っている人に送るのだ。成長したバディは寄宿舎のある学校へ、今でも毎年スックがバディにケーキを送っている。数年後スックの死を電報で知ることになる。年の離れた親友の友情の物語は珍しいので新鮮で面白いと思います。本の挿絵がとてもかわいいので気になる人は是非読んでみてください。

「飛ぶ教室」 クストナー

ドイツの寄宿学校で暮らす五人の少年―ジョニー, ウーリ, ゼバスティアン, マルティン, マティアス。五人は共に過ごしていく中で、それぞれが抱える悩みや葛藤を互いに助け合いながら乗り越えていく。さまざまな壁にぶつかりながらも、友情を育み、信頼を学び、大人たちに見守られて成長していく少年たち。個性あふれる五人のクリスマスまでの数日間を描いた、笑いあり、涙ありの心温まる感動ストーリー。

「また、同じ夢を見ていた」 住野よる

この物語は主人公で「人生とは～」が口癖の小学生 小柳奈ノ花が、尻尾のちぎれた黒猫と共に、様々な過去を持つ女性たちとの不思議な出会いを通して「幸せ」について考える物語です。3 人の女性に出会って沢山の影響を受けながら、学校での人間関係、親との関係など、様々な問題を乗り越えて奈ノ花自身が大きく成長していきます。女性たちとの別れは突然訪れますが、それは奈ノ花にとって大きな意味を持っています。
この本は読んでいて心が温かくなる冬にぴったりの本です。
３人の女性との出会いと別れを通じてどのように成長していくのか、みなさんも読んで確かめてみてください。